

コストは増加するが、景況感の改善は続く

香川県内企業経営動向調査（2018年6月実施）

1.概況

今期（2018年4～6月期）県内企業の業況判断BSIは、前期の△2.7から1.0ポイント上昇し、△1.7と改善した。製造業は前期比0.1ポイントの上昇、非製造業は前期比1.9ポイントの上昇となり、それぞれ景況感の改善に寄与した。

来期BSIは、全業種で今期の△1.7から2.4ポイント上昇し0.7の見通しである。先行き懸念要因として原材料価格上昇などもあるが、景況感は引き続き改善すると見込まれる。

2.調査結果

(1)業況判断BSI

今期BSIは、前期の△2.7から1.0ポイント上昇し△1.7となった。

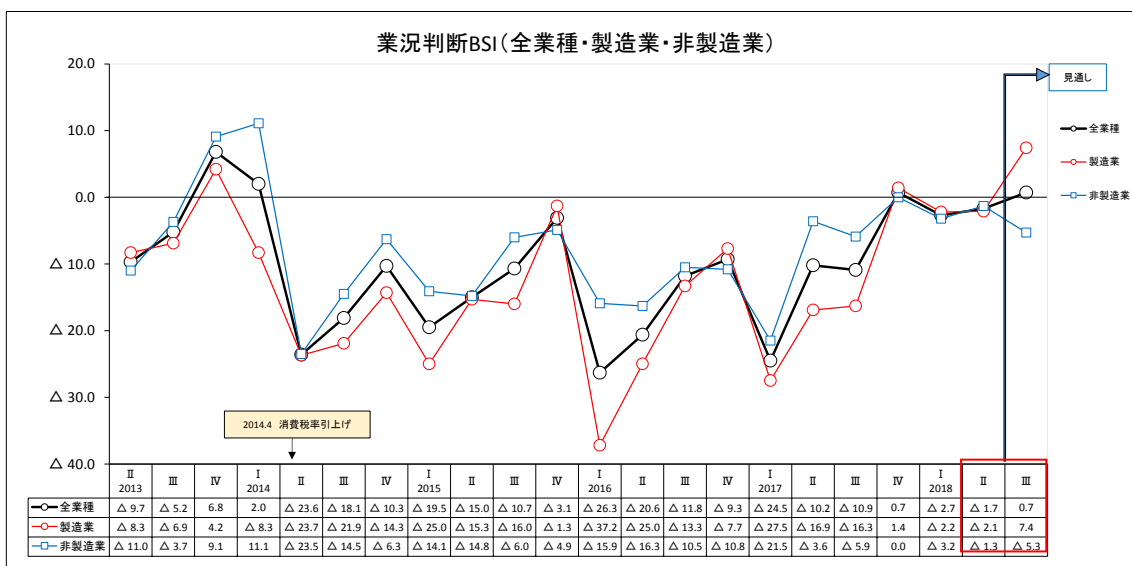
業種別でみると、製造業は前期の△2.2から0.1ポイント上昇して、△2.1となった。加工組立型業種や、生活関連型業種が上昇して、素材型業種が低下した。

非製造業は、前期の△3.2から1.9ポイント上昇して、△1.3となった。建設業は受注減、卸売、小売業、運輸業はコスト増加が要因となって低下した。サービス業等は上昇しており、とりわけ宿泊業、飲食業などインバウンドの恩恵を受ける業種の回復幅が大きい。

来期BSIは、今期の△1.7から2.4ポイント上昇し、0.7とプラス圏内に回復する見通しとなった。業種別でみると、製造業は受注高や生産高の回復により全分野が改善して、今期の△2.1から9.5ポイント上昇し7.4の見通しとなった。

非製造業は、原油、原材料価格や人件費のコスト増加により今期の△1.3から4.0ポイント低下して△5.3の見通し。建設業、卸売、小売業、サービス業等は低下、運輸業は上昇する見通しとなった。

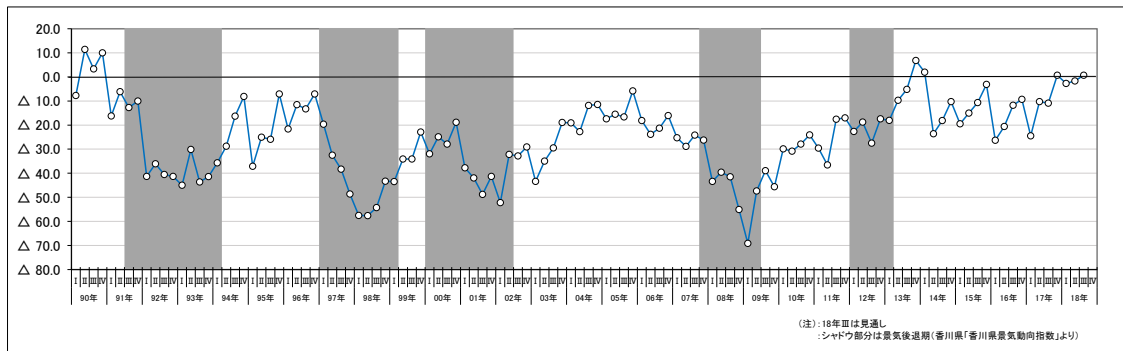
先行きとしては、コスト増加が懸念要因となるものの、企業の積極的な設備投資を背景に、景況感は引き続き改善すると見込まれる。



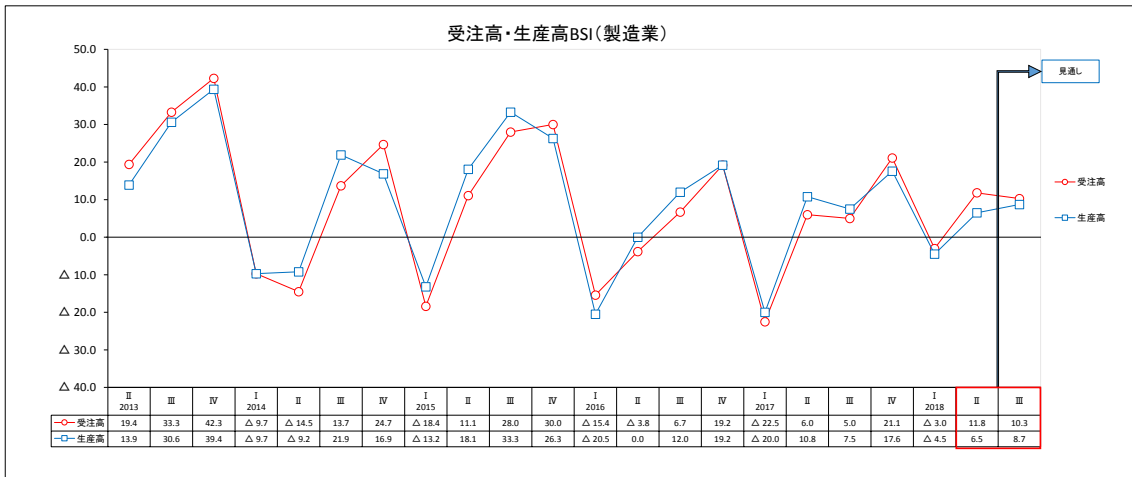
【業種別 業況判断 BSI の推移】

業種	実績														見通し
	2015 II	III	IV	2016 I	II	III	IV	2017 I	II	III	IV	2018 I	II	III	
全業種	△ 15.0	△ 10.7	△ 3.1	△ 26.3	△ 20.6	△ 11.8	△ 9.3	△ 24.5	△ 10.2	△ 10.9	0.7	△ 2.7	△ 1.7	0.7	
製造業	△ 15.3	△ 16.0	△ 1.3	△ 37.2	△ 25.0	△ 13.3	△ 7.7	△ 27.5	△ 16.9	△ 16.3	1.4	△ 2.2	△ 2.1	7.4	
素材型	△ 4.5	△ 8.7	12.0	△ 24.0	△ 25.9	4.2	0.0	0.0	3.7	0.0	△ 12.0	△ 4.5	△ 8.5	2.2	
加工組立型	0.0	△ 5.6	10.5	△ 21.1	△ 15.8	△ 22.2	△ 21.1	△ 16.7	△ 5.6	△ 10.5	5.6	9.1	10.5	21.1	
生活関連型	△ 31.3	△ 26.5	△ 16.7	△ 55.9	△ 29.4	△ 21.2	△ 5.7	△ 51.4	△ 36.8	△ 31.4	10.0	△ 6.6	△ 5.5	1.9	
非製造業	△ 14.8	△ 6.0	△ 4.9	△ 15.9	△ 16.3	△ 10.5	△ 10.8	△ 21.5	△ 3.6	△ 5.9	0.0	△ 3.2	△ 1.3	△ 5.3	
建設業	△ 6.3	△ 6.3	26.7	20.0	△ 12.5	12.5	△ 6.7	6.3	△ 6.7	△ 6.3	6.3	8.3	0.0	△ 18.8	
卸売、小売業	△ 21.1	2.5	△ 17.9	△ 20.5	△ 20.0	△ 14.3	△ 15.0	△ 24.3	0.0	2.5	5.6	4.7	2.1	△ 2.2	
運輸業	△ 22.2	△ 30.0	△ 30.0	△ 30.0	△ 33.3	△ 33.3	△ 25.0	△ 50.0	△ 22.2	△ 33.3	△ 37.5	0.0	△ 9.5	△ 4.8	
サービス業等	△ 5.6	△ 11.1	11.1	△ 27.8	△ 5.0	△ 10.5	0.0	△ 27.8	0.0	△ 10.0	0.0	△ 12.3	△ 1.4	△ 4.3	

【業況判断 BSI の長期推移(全業種)】



(2) 受注高・生産高 BSI、売上高・在庫高 BSI

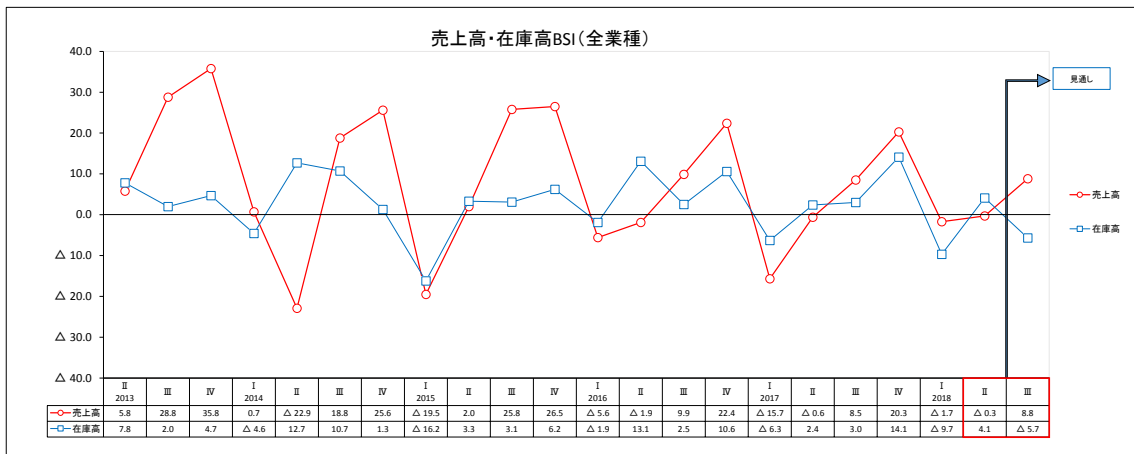


業種別受注高 BSI

業種	実績											見通し
	2016 II	III	IV	2017 I	II	III	IV	2018 I	II	III		
全業種	△ 3.8	6.7	19.2	△ 22.5	6.0	5.0	21.1	△ 3.0	11.8	10.3		
製造業	△ 3.8	6.7	19.2	△ 22.5	6.0	5.0	21.1	△ 3.0	11.8	10.3		
素材型	0.0	△ 12.5	33.3	△ 16.0	3.7	3.8	8.3	△ 2.4	11.6	9.3		
加工組立型	△ 21.1	27.8	△ 5.3	△ 27.8	5.6	5.3	11.1	15.2	15.0	25.0		
生活関連型	2.9	9.1	22.9	△ 24.3	7.9	5.7	37.9	△ 13.6	9.4	0.0		

業種別生産高 BSI

業種	実績											見通し
	2016 II	III	IV	2017 I	II	III	IV	2018 I	II	III		
全業種	0.0	12.0	19.2	△ 20.0	10.8	7.5	17.6	△ 4.5	6.5	8.7		
製造業	0.0	12.0	19.2	△ 20.0	10.8	7.5	17.6	△ 4.5	6.5	8.7		
素材型	7.4	△ 16.7	41.7	△ 16.0	11.1	19.2	4.3	0.0	11.1	4.4		
加工組立型	△ 21.1	22.2	△ 10.5	0.0	11.1	△ 10.5	0.0	12.1	7.5	20.0		
生活関連型	5.9	27.3	20.0	△ 32.4	10.5	8.6	40.7	△ 16.9	1.9	3.8		



業種別売上高BSI

業種	業 績												見通し	
	2016 II	III	IV	2017 I	II	III	IV	2018 I	II	III	II	III		
全業種	△1.9	9.9	22.4	△15.7	△0.6	8.5	20.3	△1.7	△0.3	8.8	4.1	△5.7		
製造業	△3.8	9.3	28.2	△25.0	2.4	6.3	20.5	△0.7	4.2	12.6	3.6	△3.6		
素材型	3.7	16.7	41.7	△12.0	3.7	7.7	8.0	0.0	6.4	12.8	6.4	△8.5		
加工組立型	△26.3	16.7	△5.3	0.0	△5.6	△15.8	11.1	18.2	2.5	22.5	10.8	5.4		
生活関連型	2.9	24.2	37.1	△45.9	5.3	17.1	36.7	△11.5	3.6	5.4	△3.6	△5.4		
非製造業	0.0	10.5	16.9	△6.3	△3.6	10.6	20.0	△2.6	△4.5	5.2	4.8	△8.0		
建設業	△12.5	12.5	0.0	25.0	△20.0	18.8	△6.3	13.0	△31.3	12.5	0.0	0.0		
卸売、小売業	0.0	△2.4	20.0	△8.1	0.0	7.5	33.3	△9.3	8.5	0.0	13.0	△11.1		
運輸業	△22.2	11.1	37.5	△37.5	0.0	11.1	37.5	0.0	4.8	5.0	0.0	0.0		
サービス業等	20.0	36.8	15.0	△16.7	0.0	10.0	6.7	△4.2	△9.6	6.9	△3.4	△8.8		

業種別在庫高BSI

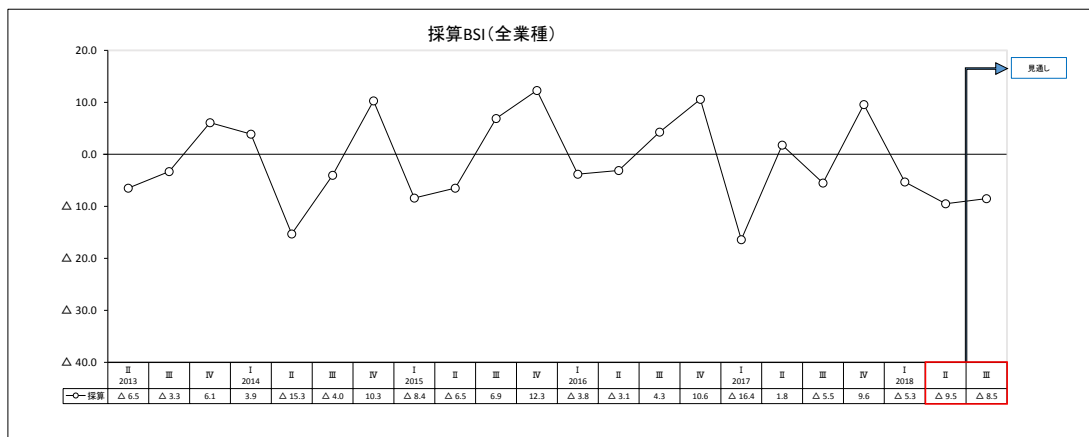
業種	業 績												見通し	
	2016 II	III	IV	2017 I	II	III	IV	2018 I	II	III	II	III		
全業種	13.1	2.5	10.6	△6.3	2.4	3.0	14.1	△9.7	4.1	△5.7	4.1	△5.7		
製造業	20.0	12.0	5.1	△6.3	2.4	0.0	13.9	△8.1	3.6	△3.6	3.6	△3.6		
素材型	29.6	0.0	33.3	△4.0	7.4	3.8	0.0	△6.8	6.4	△8.5	6.4	△8.5		
加工組立型	5.3	5.6	5.3	△5.6	5.6	△15.8	11.1	0.0	10.8	5.4	10.8	5.4		
生活関連型	20.6	24.2	△14.3	△8.1	△2.6	5.7	27.6	△13.3	△3.6	△5.4	△3.6	△5.4		
非製造業	6.3	△5.8	15.7	△6.3	2.4	5.9	14.3	△11.3	4.8	△8.0	4.8	△8.0		
建設業	△12.5	18.8	6.7	△6.3	△13.3	0.0	20.0	△17.6	0.0	0.0	0.0	0.0		
卸売、小売業	20.0	△11.9	22.5	△2.7	10.0	12.5	13.9	△14.3	13.0	△11.1	13.0	△11.1		
運輸業	0.0	△11.1	0.0	△12.5	0.0	△11.1	20.0	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0		
サービス業等	0.0	21.1	15.0	△11.1	0.0	5.0	8.3	△9.8	△3.4	△8.8	△3.4	△8.8		

(3)採算 BSI

今期は前期の△5.3 から 4.2 ポイント低下して△9.5 となった。業種別にみると、製造業は前期の△7.4 から 4.8 ポイント低下して△12.2、非製造業では前期の△3.4 から 3.5 ポイント低下して△6.9 となった。

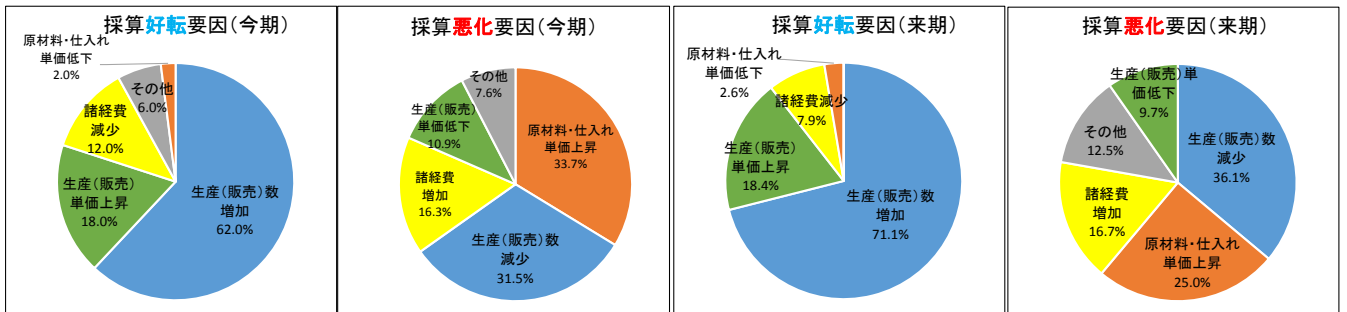
生産（販売）数は増加するものの、原材料仕入価格の上昇などコストが増加することで採算が低下した。「原料価格の上昇に伴い納品価格を上昇させたいが、すべての転嫁はできない（製造業）」「大手量販店やネットとの価格競争に巻き込まれ苦戦（卸売、小売業）」といった声が聞かれている。

来期は、今期の△9.5 から 1.0 ポイント上昇して△8.5 の見通し。非製造業では、今期の△6.9 から 4.4 ポイント低下して△11.3 の見通しとなるものの、製造業では今期の△12.2 から 6.4 ポイント上昇して△5.8 となり、全業種では上昇する見通しとなっている。「少しずつ顧客が価格交渉に理解をしてきている（製造業）」と、製造業では価格転嫁の動きもみえている。



業種別採算BSI

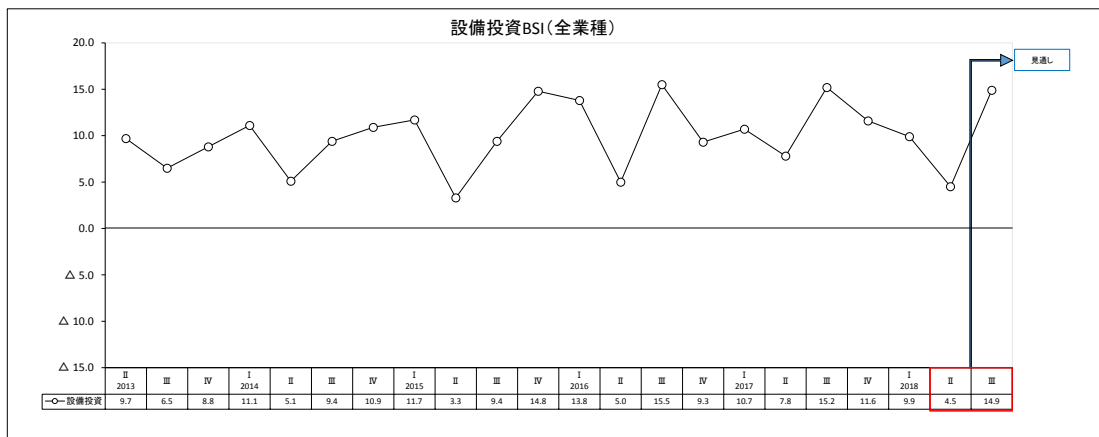
業種	実績									見通し	
	2016 II	III	IV	2017 I	II	III	IV	2018 I	II	III	
全業種	△ 3.1	4.3	10.6	△ 16.4	1.8	△ 5.5	9.6	△ 5.3	△ 9.5	△ 8.5	
製造業	△ 8.8	△ 2.7	14.1	△ 20.0	△ 1.2	△ 2.5	6.9	△ 7.4	△ 12.2	△ 5.8	
素材型	△ 7.4	△ 20.8	25.0	△ 8.0	3.7	△ 3.8	△ 8.3	△ 7.0	△ 15.2	△ 6.5	
加工組立型	△ 15.8	0.0	△ 5.3	△ 16.7	0.0	△ 15.8	0.0	△ 3.1	△ 2.6	△ 5.3	
生活関連型	△ 5.9	9.1	17.1	△ 29.7	△ 5.3	5.7	23.3	△ 10.0	△ 16.4	△ 5.5	
非製造業	2.5	10.5	7.2	△ 12.7	4.8	△ 8.2	12.2	△ 3.4	△ 6.9	△ 11.3	
建設業	0.0	18.8	13.3	△ 6.3	0.0	0.0	12.5	13.0	△ 16.7	△ 16.7	
卸売、小売業	0.0	9.5	17.5	△ 8.1	5.0	△ 5.0	20.0	2.5	0.0	△ 18.2	
運輸業	△ 44.4	11.1	△ 25.0	△ 25.0	△ 11.1	△ 44.4	0.0	△ 23.1	△ 10.0	0.0	
サービス業等	30.0	5.3	△ 5.0	△ 22.2	15.8	△ 5.0	0.0	△ 8.5	△ 9.0	△ 9.1	

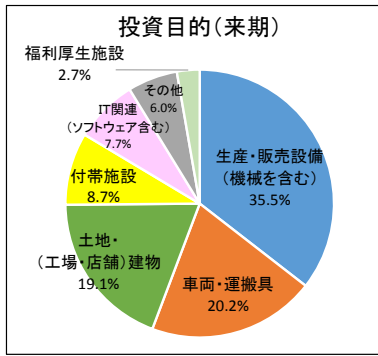


(4)設備投資BSI

今期は4.5となり、来期は今期から10.4ポイント上昇して14.9の見通し。投資目的をみると「生産・販売設備（機械を含む）」が35.5%、「車両・運搬具」が20.2%「土地・（工場・店舗）建物」19.1%となっている。

今期は非製造業、とりわけ建設業と運輸業が大きく低下したが来期は回復の見通しとなっており、全業種でみると設備投資BSIは高い水準が続く見通しとなっている。「求人難のおり、自動化等によりコストダウン要請に応えつつも利益を出す体質づくり」に努力している（製造業）」など、生産性向上を目指して設備増強に取り組む様子が窺える。





業種別設備投資BSI

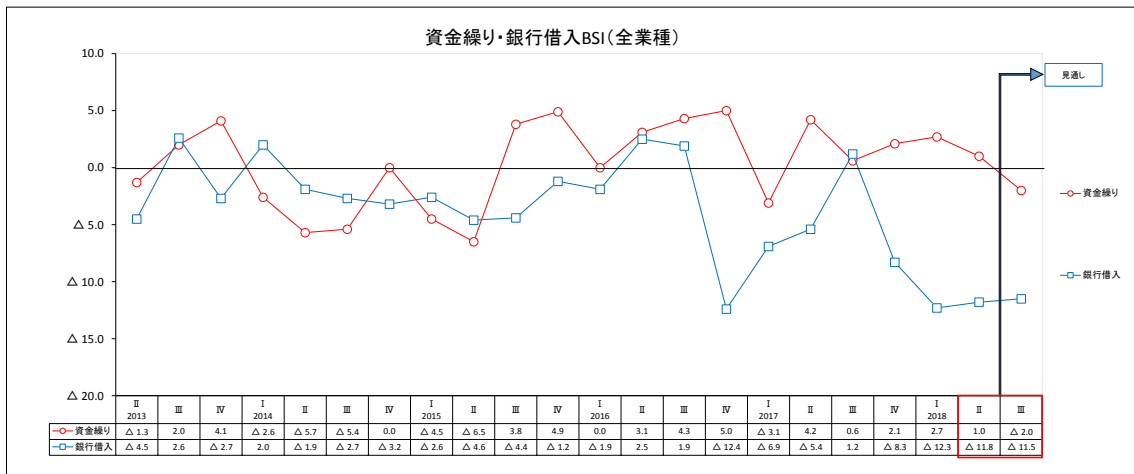
業種	実績								見通し	
	2016 II	III	IV	2017 I	II	III	IV	2018 I	II	III
全業種	5.0	15.5	9.3	10.7	7.8	15.2	11.6	9.9	4.5	14.9
製造業	3.8	21.3	9.0	10.0	8.4	16.3	13.7	11.0	10.1	15.2
素材型	11.1	25.0	12.5	8.0	14.8	23.1	24.0	6.8	10.6	12.8
加工組立型	△ 15.8	33.3	5.3	22.2	△ 5.6	26.3	0.0	15.6	15.4	10.3
生活関連型	8.8	12.1	8.6	5.4	10.5	5.7	13.3	11.7	5.7	21.2
非製造業	6.3	10.5	9.6	11.4	7.2	14.1	9.6	8.8	△ 0.7	14.7
建設業	12.5	12.5	13.3	18.8	20.0	18.8	6.7	△ 4.8	△ 20.0	20.0
卸売、小売業	2.9	△ 2.4	15.0	5.4	10.0	10.0	2.9	△ 9.8	8.7	26.7
運輸業	△ 33.3	0.0	△ 12.5	0.0	△ 11.1	33.3	25.0	26.7	△ 9.5	4.8
サービス業等	25.0	42.1	5.0	22.2	0.0	10.0	20.0	19.7	0.0	8.7

(5)資金繰り・銀行借入 BSI

今期、資金繰り BSI は前期の 2.7 から 1.7 ポイント低下して 1.0、銀行借入 BSI は前期の $\Delta 12.3$ から 0.5 ポイント改善して $\Delta 11.8$ となった。来期、資金繰り BSI は今期の 1.0 から 3.0 ポイント低下して $\Delta 2.0$ 、銀行借入 BSI は今期の $\Delta 11.8$ から 0.3 ポイント改善して $\Delta 11.5$ となる見通しとなっている。

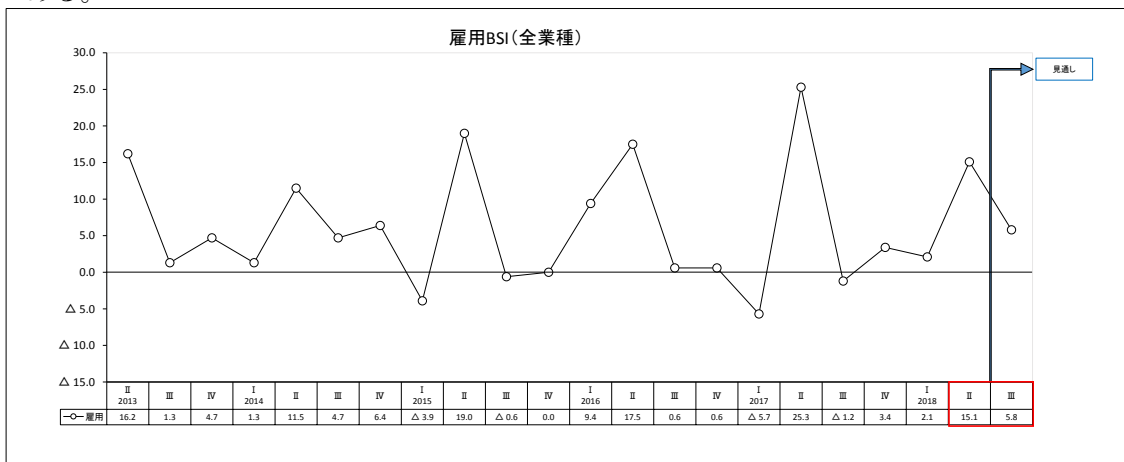
資金需要が高まるなか、企業は主に手元資金で対応し借入には慎重姿勢をとることで、資金繰り BSI は低下しつつも銀行借入 BSI は横ばい推移と考えられる。

「外注が多くなり社内に現金が残りにくい（製造業）」との声が聞かれている。



(6)雇用 BSI

今期は、新卒採用時期であり、前期の 2.1 から 13.0 ポイント上昇して 15.1 となった。来期は今期の 15.1 から 9.3 ポイント低下するものの、5.8 と高水準に留まる見通しである。



B S I : Business Survey Index の略で、企業動向の現状と先行き見通しに対する企業経営者の判断を数字で表したものである。次の算式により求める。

B S I = X - Y X : 「好転 (増加)」と回答した企業の割合 (百分率)

Y : 「悪化 (減少)」と回答した企業の割合 (百分率)

※回答は、①好転 (増加)、②不変、③悪化 (減少) から1つ選択

(注) 本文中、時期の略記は、それぞれ次の期間を表す。

・ I 期 : 1~3 月、II 期 : 4~6 月、III 期 : 7~9 月、IV 期 : 10~12 月

(7) 経営上の問題点

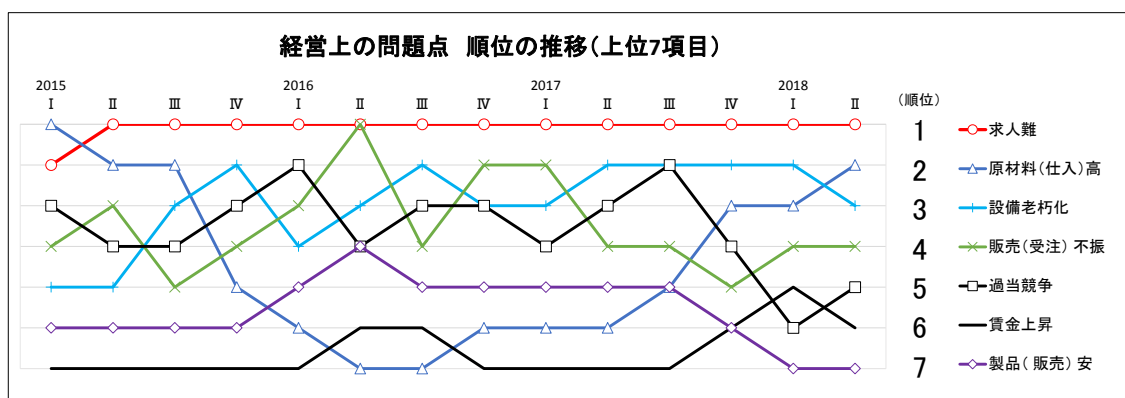
回答企業に、経営上の問題点を複数回答で尋ねたところ、1位は「求人難」が27.0%、2位は「原材料(仕入)高」が14.5%、3位は「設備老朽化」が14.4%となった。

「求人難」は13期連続で1位となっている。「原材料(仕入)高」が2位に浮上したのは原油価格急騰や鋼材価格上昇の影響と考えられ、「設備老朽化」も構成比からみて依然として重要な課題である。

求人難の状況としては、「新工場稼働予定につき募集しているがなかなか集まらない(製造業)」のほか、「将来を見据えた人材(幹部候補)の確保(サービス業)」など、要求水準を満たす人材が確保できない悩みも聞かれた。

経営上の問題点

2017年/7~9月期			2017年/10~12月期			2018年/1~3月期			2018年/4~6月期		
順位	項目	構成比	順位	項目	構成比	順位	項目	構成比	順位	項目	構成比
1	求人難	25.1%	1	求人難	26.5%	1	求人難	26.2%	1	求人難	27.0%
2	設備老朽化	15.2%	2	設備老朽化	15.1%	2	設備老朽化	15.3%	2	原材料(仕入)高	14.5%
2	過当競争	15.2%	3	原材料(仕入)高	14.8%	3	原材料(仕入)高	14.3%	3	設備老朽化	14.4%
4	販売(受注)不振	13.2%	4	過当競争	13.6%	4	販売(受注)不振	11.3%	4	販売(受注)不振	10.8%
5	製品(販売)安	9.9%	5	販売(受注)不振	11.4%	5	賃金上昇	10.0%	5	過当競争	9.9%
5	原材料(仕入)高	9.9%	6	製品(販売)安	7.8%	6	過当競争	9.9%	6	賃金上昇	9.2%
7	賃金上昇	6.8%	6	賃金上昇	7.8%	7	製品(販売)安	6.1%	7	製品(販売)安	6.7%
8	環境対応	1.7%	8	設備不足	0.9%	8	その他	2.1%	8	設備不足	2.4%
9	設備不足	0.8%	8	環境対応	0.9%	9	設備不足	1.8%	9	環境対応	1.8%
9	その他	0.8%	10	回収条件の悪化	0.6%	10	環境対応	1.6%	10	その他	1.5%
11	借入れ難	0.6%	11	借入れ難	0.3%	11	回収条件の悪化	0.5%	11	設備過剰	0.6%
12	金利負担増	0.3%	11	金利負担増	0.3%	11	金利負担増	0.5%	11	回収条件の悪化	0.6%
12	設備過剰	0.3%	13	設備過剰	0.0%	13	借入れ難	0.2%	13	金利負担増	0.4%
12	回収条件の悪化	0.3%	13	その他	0.0%	13	設備過剰	0.2%	14	借入れ難	0.3%



(8) 企業各社から寄せられた見方、コメント等

製造業
・県内での受注は今後減少していくと思われる。一方、大都市圏は好況であるため、そちらでの受注活動に注力する。
・今はフル操業が続いているが、先行きは不透明感が強い。少ロット、多品種の試作品受注が増加しているが、販売増加につながるかどうか分からない。
・次年度以降、消費税引上げの影響やオリンピック後の景況推移を注視し、在庫やコストの面から採算管理を強化する方針。
・既存製品は価格競争により採算性が悪化。付加価値ある新製品開発が必要である。
・親会社は2桁成長をしており、弊社も昨年新工場を増設し従業員を増員して対応。
・業界の川上に位置するメーカーが（販売面へ）参入してきており、ますます競合が激化している。
・食の多様化や少子高齢化など時代にマッチした商品開発が必要。商品のこだわり化、原資材の国産化が求められるなか、原材料の高騰が（経営に）大きく影響している。
・Web化で（業界が）縮小傾向にあり、競争が厳しい。そのため受注単価が年々低下して収益を圧迫している。

建設業
・公共工事は国、県の予算で大きく左右される。製品を輸入しており円安になると困る。
・消費税の再引き上げまでは好調だろう。

卸売、小売業
・少子高齢化のなか、競合出店もあり、既存の客数は微減。原材料の値上がりの影響は大きい。販売単価の向上を図ることで前年並業績を維持している。
・業況好転期であるが、人員不足により受注を消化できていない。
・昨年末、年初の寒さから、流通在庫の減少が見込まれるので本年は増収増益を期待。
・地域シェア維持で売上は何とか横ばい。今後、人口減少することが確実でありシェアの維持拡大が見込めなくなるようであれば方針転換できる準備も必要。

運輸業
・人手不足、残業時間削減のなか人件費が上昇。また、昨年来の燃料費高騰により今後の見通しが立たない。
・人口減少のなか、確実に増加が予想されるインバウンドに注力している。
・運転手の高齢化、人員不足は業界の問題。公共性の観点から運転手の確保と育成を行うことが必要だと思われる。

サービス業等
・インバウンドは好調推移。東アジアからの来客が中心だが、欧米からの来客も増加中。
・高松空港の国際路線拡充で訪日客が多い。国内団体客は30年間で3分の1に減少。
・宿泊部門はインバウンドが好調。日本人客減少が続いている。これからはMICE誘致が売上に大きく影響すると予想される。
・コンビニが安価な副食を提供していることで、セットメニューなどの売上が減少。
・経済のシュリンクは高齢者とその家族の節約につながり売上にマイナス影響となる。
・今後、可能な限り南海地震対策を進めてゆきたい。

業種	回答社数	構成比
全業種	301	100.0%
製造業	144	47.8%
素材型	47	15.6%
加工組立型	40	13.3%
生活関連型	57	18.9%
非製造業	157	52.2%
建設業	16	5.3%
卸売, 小売業	47	15.6%
運輸業	21	7.0%
サービス業等	73	24.3%

企業経営動向調査概要

- ① 調査時期：2018年6月11日～2018年7月9日
(毎年3・6・9・12月実施)
- ② 調査事項：業況、受注高、生産高、売上高、在庫高、資金繰り、銀行借入、設備投資、雇用、採算の各項目別BSI、設備投資目的、採算の増加・減少要因、経営上の問題点
- ③ 調査方法：郵送によるアンケート
- ④ 調査対象：県内に本社または主工場を持つ主要企業642社
- ⑤ 有効回答率：46.9% (有効回答数301社)

【7業種分類】

製造業	
素材型	木材・木製品製造業(家具を除く)、パルプ・紙・紙加工品製造業、化学工業、石油製品・石炭製品製造業、プラスチック製品製造業、ゴム製品製造業、窯業・土石製品製造業、鉄鋼業、非鉄金属製造業、金属製品製造業
加工組立型	はん用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、業務用機械器具製造業、電子部品・デバイス・電子回路製造業、電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業、輸送用機械器具製造業
生活関連型	食料品製造業、飲料・たばこ・飼料製造業、繊維工業、家具・装備品製造業、印刷・同関連業、なめし革・同製品・毛皮製造業、その他の製造業
非製造業	
建設業	
卸売, 小売業	
運輸業	
サービス業等	電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、教育、学習支援業、医療、福祉、複合サービス事業、サービス業(他に分類されないもの)

(主任研究員 村尾耕太、後藤健文)